

葵会 逗子病院の ???

会 長 池 上 晃 子

今年は逗子市が誘致を計画している仮称葵会逗子病院のことで振り回された年でした。

逗子市は昨年秋に突如総合的病院の誘致を決め、公募にあたって沼間の市有地を無償貸与することを条件に、*170床以上の規模、*救急稼働24時間365日、*急性期型病院、*災害時の地域医療救助活動の拠点などの機能を持つ病院であることを要望しました。その結果選定されたのが医療法人社団葵会でした。

決定された後様々な問題が発生しました。まず175床の要望に対して三浦半島地区保健医療福祉推進会議で認められたのは109床でその内一般病床（急性期対応）は僅か24床のみでした。24床の病床で果たして逗子市が要望しているような急性期型の病院としての役割を担うことができるのか？医療関係者であればだれでもNOと答えるはずですが。しかし逗子市と葵会は今後増床申請をして最終的に300床規模の病院にすると強弁しています。病床割り当てについては望めば叶うという仕組みにはなっていません。保健医療福祉推進会議で三浦半島地区の病床の過不足を検討し不足と認められたのちに病床が割り当てられます。30年度病床が増えないことは既に決定されています。今後仮に不足と認定されてもその病床が葵会に割り当てられるかどうかは推進会議での協議の結果決まることなのです。何を根拠に300床規模の病院ができると言い張っているのか全く分かりません。

更に問題なのは予定されている病院の少なくとも60%が個室で差額ベッドの対象になります。最初全室有料の個室を計画していましたが市民の反発の結果4人部屋の多床室を40室160床作ることになりました。しかし多床室だからといって差額を取らないと葵会は明言していません。また逗子市民に対する差額の減額は計画に入っていません。

診療内容も当初の計画から大幅に縮小しています。救急対応、小児科診療、産婦人科の問題のどれをとっても最初公募の際に葵会が提示した機能が大幅に縮小されています。計画の変更をよくよくチェックするとこの病院が逗子市民や我々開業医が望んでいるような機能を持った病院とは思えないのです。

今年逗子市は緊急財政対策が必要だとして来年度様々な市民サービスを縮小する予定です。医師会に対する交付金、助成金も減額される可能性があります。病院誘致のためには様々な経費が掛かりその額はおよそ1億円とされています。無償貸与の市有地の借地料は本来であれば年間5000万円だそうです。危機的財政状態にある逗子市が市民の要望とは程遠い病院を誘致するためになぜこれほどのお金を掛ける必要があるのか？

10年前の病院誘致計画の際、多額な助成金を支払うことが問題になりこの計画は頓挫しました。医師会は今回も市民のニーズに応えられない病院誘致に反対していくつもりです。

本年10月に行われた理事会で医師会費の値上げが承認されました。行政からの助成金、交付金が減る一方で医師会が行うべき事業が増え事務局、役員の負担も増えています。これまで非常に低い報酬で役員を務めて頂いた会員の先生方に感謝の意を表すために役員報酬を来年度から増額することに致しました。この会費値上げ案については本年11月に行われた臨時社員総会で可決され、会員の皆様には負担をおかけすることになりましたが役員一同皆様のご期待に副うよう役割を全うするつもりです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

